

ツェルトの様々な活用法

簡易テントであるツェルトは、一般的には緊急時のビバーク用として使用します。特に晩秋から早春にかけては必需品ですが、たとえ夏山でも必携と考えるべきでしょう。それに、ビバーク以外にもさまざまな使い方ができるので、シーズンや山の標高を問わずに携帯したいものです。いろいろな用途に対応できるため、持っている安心感が違います。非常に軽量なものも出ていますので、3mm×10mなどの細引きと併せて用意しましょう。

タープやツェルトフライとして

立ち木などにロープを通したり枝をポール代わりにして張ると、簡単に短時間でタープとして活用できます。少し風の強い日や肌寒い日に休憩する際に重宝します。中で火を起こしてコーヒーを飲むもよし、女性の場合は、着替えやトイレ時の仕切りとしても利用できます。
※換気には十分気をつける必要があります。

ポンチョ&プラス1枚の防寒具に

レインウェアの上からポンチョとして被れば、防雨&防寒効果が高まります。また、突然の雨でいったん行動を中止する際など、座った上からツェルトを被るのも有効です。折り畳み式の傘を中で開けば、空間を広げることができます。



小物入れのサブテントに

テントの横に張れば、小物入れのカバーとして活用できます。テントを広く使うことができるので、意外なほど便利です。あるいは、ツェルトを枕や座布団がわりにテント内で使うこともできます。

怪我をした際の待機場所に

たとえ日帰り登山でも、怪我をして歩けなくなる事故は起こり得ます。ツェルトがあれば、救助隊がかけつけるまでの間、風や寒さを防ぎながら待機できます。ツェルトがあるとないのでは、体への負担は大きく異なります。

ビバークの際には

万が一、ツェルトでビバークせざるをえなくなった場合、中でメタ燃料を燃やすとかなり温かくなります(換気には十分気をつける必要があります)。冬期で雪洞を掘る際には、スキー板やザックなどを利用してツェルトで出入り口を覆うと、高い保温性を確保できます。

